

科目名	音楽教育学 I	科目ナンバリング	MC4E0E01
担当者	阿瀧濱 健一		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
	選択	必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
			ABCE
備考			

授業のテーマ及び到達目標	「我が国の音楽教育の変遷と教育への思い」 我が国の音楽教育の変遷や学習指導要領の内容について理解することによって、音楽教育における指導者の役割と責任、今日的な教育課題を認識し、指導者としての基礎的な資質能力を身に付ける。			
授業の概要	これまでの各学習指導要領改訂の背景や内容の特徴について調べ、まとめる。 音や音楽の捉え方及び学力観の変化を整理し、まとめる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	・音楽と教育 ・音楽教育と音楽科教育	シラバスを熟読しておく	学校で音楽を教える意義をまとめる
	2	・明治の音楽教育 「学制」頒布から小学校令まで	明治時代の社会の様子を調べる	明治時代の音楽教育の特徴をまとめる
	3	・「唱歌」と「童謡」に込められた思い	大正時代の社会の様子を調べる	唱歌の変遷と童謡運動についてまとめる
	4	・戦前・戦中の教育 芸能科音楽 早期音感教育	昭和初期の社会の様子を調べる	昭和20年までの音楽教育について考えをまとめる
	5	・教育の再構築 民主教育のいぶき	憲法の教育に関する条項の内容を調べる	戦前までの教育観との違いをまとめる
	6	・教育の再構築 学校教育における音楽の位置づけと学習指導要領(試案)	配布資料を読んでおく	教育の再構築にかけた思いをまとめる
	7	・高度経済成長期の音楽教育 学習指導要領(試案の改訂)と昭和33年の改訂	昭和30年代の社会の様子を調べる	昭和33年改訂の背景と内容をまとめる
	8	・教科内容の量的拡大 昭和43年改訂の背景と内容	昭和40年代の社会の様子を調べる	昭和43年改訂の背景と内容をまとめる

	9	・詰め込みからゆとりへ 昭和52年改訂の背景と内容	昭和50年代の社会の様子を調べる	昭和52年改訂の背景と内容をまとめる
	10	・個性重視の教育へ 平成元年の改訂の背景と内容	配布資料を読み、内容をまとめる	「音楽観」の変化をまとめる
	11	・21世紀を見据えて 生徒をめぐる状況の変化	1990年代前半の社会の様子を調べておく	生徒をめぐる状況をまとめる
	12	・21世紀を見据えて 平成10年改訂の基本的なねらい	配布資料を読み、改訂のねらいをまとめておく	「生きる力」についてまとめる
	13	・学力観の転換 新しい学力観	「学力」をどうとらえるか、自分の考えをまとめておく	「新しい学力観」についてまとめる
	14	・新しい学力観と音楽的視野の拡大	配布資料を読み、「音楽」のとらえ方をまとめておく	音楽科の改善点をまとめる
	15	・まとめと試験(総復習)	今期の学修内容を見直し、質問事項を準備する	模範解答をもとに自己解答の見直しをする

使用教科書	
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	70%	内容の理解
毎時間の振り返り、態度	30%	事前事後学修の内容や意見の深まり、積極性	

科目名	音楽教育学Ⅱ	科目ナンバリング	MC4E0E02
担当者	阿瀧濱 健一		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	後期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
	選択	必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
			ABCE
備考			

授業のテーマ及び到達目標	「これからの音楽教育」 音楽教育の現状と課題や評価について、さらに国内外の音楽教育論の概要について学ぶことをとおして、今日的教育課題を把握し、音楽教育における指導者の役割と責任、さらに指導者としての基礎的な資質能力について理解することができる。			
授業の概要	これからの音楽教育において育てたい態度や能力についてまとめるとともに、世界や日本の代表的な音楽教育論者の考えについて調べ、発表する。 音楽教育における評価について理解し、題材の具体的評価基準を作る。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	・平成20年度改訂の学習指導要領がねらうもの	前期学修内容を再確認しておく	平成20年改訂の背景と内容をまとめる
	2	・「共通事項」と言語活動	「共通事項」について調べる	言語活動についてまとめる
	3	・平成29年度改訂の基本方針と改訂の趣旨	配布資料を読んでおく	基本方針と改訂の趣旨をまとめる
	4	・求められる指導のあり方 育成すべき資質・能力の三つの柱 音楽科の見方・考え方	学習指導要領解説p1～p8を読んでおく	音楽科の目標と見方・考え方をまとめる
	5	・求められる指導のあり方 主体的・対話的で深い学び	配布資料を読んでおく	これからの音楽教育のあり方について考えをまとめる
	6	・世界の主な教育論(討議) ダルクローズ、コダーイ、オルフ、J. ペインター、鈴木鎮一、斎藤秀雄	主な教育論者(提示)を選び、調べておく	グループ内の情報を参考に、さらに深く調べる
	7	・世界の主な音楽教育論(発表) ダルクローズ、コダーイ、オルフ	調べたことをまとめ、発表の準備をしておく	「世界の主な音楽教育論」についてレポートをかく
	8	・世界の主な音楽教育論(発表) J. ペインター、鈴木鎮一、斎藤秀雄	調べたことをまとめ、発表の準備をしておく	「世界の主な音楽教育論」についてレポートをかく

	9	・新しい評価の考え方と音楽科における評価 3観点とその趣旨	音楽の授業でどのような評価を受けてきたかをまとめる	音楽科で行われる評価方法をまとめる
	10	・題材の評価基準 表現領域と鑑賞領域	参考資料(テキスト)のp21～p32を 読んでおく	評価基準に盛り 込むべき事項を 再確認する
	11	・題材の観点別評価基準設定の実際 観点:主体的に学習に取り組む態度	配布資料を読んで おく	具体的評価基準 を作成する
	12	・題材の観点別評価基準設定の実際 観点:思考・判断・表現 観点:知識・技能	2観点の観点別評 価基準を設定して みる	具体的評価基準 を作成する
	13	・学習活動に則した評価基準	配布資料を読んで おく	提示した題材の 評価計画を作成 する
	14	・本時の評価の進め方と総括	評価方法を考えて おく	評価のあり方につ いて自分の考えを まとめる
	15	・まとめと試験(総復習)	今期の学修内容 を見直し、質問事 項を準備する	模範解答をもとに 自己解答を見直 す

使用教科書	学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育図書株式会社),
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽(東洋館出版社)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	70%	内容の理解
	毎時間の振り返り、態度	30%	事前事後学修の内容や意見の深まり、積極性

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	MC4E0E03
担当者	阿瀧濱 健一		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
			ACDE
備考			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 教育制度の意義・原理・構造について、法的・制度的仕組みの基礎的知識及び教育制度上の諸課題を理解する。</p> <p>② 学校と地域との連携の意義・協働の仕方について、事例を通して理解する。</p> <p>③ 学校事故・災害・事件の実情を知り、学校安全の目的、危機管理の具体的な取組みを理解する。</p>			
授業の概要	<p>教職課程履修者に、</p> <p>① 教育制度の概要と今日的な教育上の課題、教育関係法規について</p> <p>② 学校と地域との連携</p> <p>③ 学校安全への対応を概説する。</p> <p>また、教育職員としての使命感や基礎的な資質・能力を養う。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	「公教育の基本原則」 学校とは、教育の目的と公教育の原理、教育法規、日本の教育の現状について理解する	学校制度について調べる	公教育の発達と現在の学校制度についてまとめる
	2	「学校教育制度(1)～就学前教育制度」 就学前教育制度の概要と実際、これからの展望について理解する	就学前教育制度について調べる	就学前教育制度についてまとめる
	3	「学校教育制度(2)～義務教育制度」 義務教育とは何か、義務教育制度の現状と課題等について理解する	義務教育制度について調べる	義務教育制度についてまとめる
	4	「学校教育制度(3)～後期中等教育制度」 高等学校の概要、後期中等教育の多様化等について理解する	後期中等教育の制度について調べる	後期中等教育制度についてまとめる
	5	「高等教育と生涯学習」 高等教育機関、高等教育の社会的役割、生涯学習について理解する	高等教育と生涯学習について調べる	高等教育と生涯学習についてまとめる
	6	「教育行政制度～国と地方」 教育行政の基礎、国の教育行政等について理解する	教育行政制度について調べる	国と地方の教育行政制度についてまとめる
	7	「教育行政制度～地方・財政」 地方教育行政の基礎、役割、教育財政について理解する	地方教育行政の基礎、役割について調べる	地方教育行政の基礎、役割、教育財政についてまとめる
	8	「学校の組織・経営・評価」 学校組織と校長のリーダーシップ、学校評価と質保証等について理解する	学校組織・経営・評価について調べる	学校組織・経営・評価についてまとめる

	9	「学校と地域の連携」 学校と地域の連携の歴史と必要性、今後の連携・協働の促進等について理解する	学校と地域の連携 について調べる	学校と地域の連 携についてまとめ る
	10	「学校・学級の諸課題」 教育振興基本計画が示す日本の諸課題等について理解する	学校・学級の諸課 題について調べる	学校・学級の諸課 題についてまとめ る
	11	「海外の学校制度と教育の国際化」 諸外国の学校制度、国際学力調査等について理解する	海外の学校制度と 教育の国際化に について調べる	海外の学校制度 と教育の国際化 についてまとめ る
	12	「学校教育制度の成立と発展」 日本における近代学校制度の成立、戦後教育改革等について理解する	日本における近代 学校制度について 調べる	日本における学 校教育制度につ いてまとめる
	13	「学校教育制度の展開」 戦後教育改革からの転換、教育基本法改正と新自由主義的教育政策等について理解する	教育基本法改正 について調べる	戦後教育改革か らの転換について まとめる
	14	「学校教育制度の行方(1)」 福祉国家から新自由主義への転換、新自由主義における教育政策について理解する	新自由主義にお ける教育政策につ いて調べる	新自由主義にお ける教育政策につ いてまとめる
	15	「学校教育制度の行方(2)」 教育に必要な費用と負担者、公教育の成果と課題について理解する	公教育の成果と課 題について調べる	公教育の成果と 課題についてまと める

使用教科書	毎時プリント資料を配付する(学習指導要領・学校教育に関する答申・教育関係法規等)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題レポート	60%	課題レポートを2回提出
	授業態度	20%	講義への取組み、意欲関心
	学修課題への対応	20%	事前・事後学習の実績

科目名	特別支援教育論	科目ナンバリング	MC4E0E04
担当者	河田 将一		
担当形態	単独	単位数	1単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	後期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
	音楽療法	ディプロマポリシー	
			CF
備考			

授業のテーマ及び到達目標	①障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解し例示することができる。②特別支援教育に係る教育課程や支援方法を理解し例示することができる。③特別支援教育の体制整備、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成、他機関等との連携について、その必要性と方法を理解し説明することができる。④母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズに対しての組織的対応の必要性を理解し説明することができる。			
授業の概要	発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が通常の学級にも在籍している現状を踏まえ、当該幼児、児童及び生徒が主体的に学習し、生きる力を身に付けていくために、彼らの学習上又は生活上の困難を理解した上で、個別の教育的ニーズを把握し、園・学校総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	障害特性の理解と支援方法(1)障害特性、学習上・生活上の困難の理解	参考書の中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	2	障害特性の理解と支援方法(2)障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(1)アセスメントに基づく指導と支援を中心に	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	3	障害特性の理解と支援方法(3)障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(2)ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・指導と支援を中心に	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	4	特別支援教育の教育課程インクルーシブ教育システムの構築、就学先等の決定プロセスに関する理解、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導に関する制度・内容の理解、自立活動とその内容の理解、交流及び共同学習の理解	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	5	特別支援教育の体制整備 特別支援教育コーディネーターの指名、園・校内委員会の位置付け、研修の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、データベースの活用、ケース検討会の充実	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	6	個別の指導計画・教育支援計画の作成等PDCAサイクルに基づく個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成、他機関との連携の重要性、移行支援の重要性	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	7	特別な教育的ニーズの理解と対応 母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズの理解と組織的対応	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	8	試験と総括講義 試験とこれまでの授業の総括としての講義	これまで作った自作テキストで総復習しておく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを完成

使用教科書	毎回、授業データを書取り又は配布し、1冊のテキストが完成できるようにする。
参考書・参考資料等	特別支援教育研究(東洋館出版社:月刊),
	実践みんなの特別支援教育(学研:月刊)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	20%	本科目への関心・態度・意欲
	課題/レポート	30%	知識、理解度、思考力、判断力、表現力
	期末テスト	50%	知識、理解度、思考力、判断力、表現力

科目名	教育課程総論	科目ナンバリング	MC4E0E05
担当者	榎山 範夫		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
	選択	必修	
	音楽療法	ディプロマポリシー	
			ABC
備考			

授業のテーマ及び到達目標	<p>○自分が取り組んでみたいカリキュラムを開発する</p> <p>学習指導要領に基づく教育課程編成の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義等について理解するとともに、総合的な学習の時間の指導計画を作成することができる。</p>			
授業の概要	<p>学習指導要領に基づいて各学校の教育課程が編成され、それに基づいて日々の授業や教育活動が実践される。学校教育の柱ともいえる教育課程編成の原理や方法を明らかにし、それを踏まえて総合的な学習の時間の指導計画を作成する。学習指導要領の変遷の背景と次期学習指導要領への理解を促す。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教育課程とは何か 学習指導要領の性格と位置づけについて理解し、教育課程編成の目的について考える。	学習指導要領の性格と位置づけについて調べる。	学習指導要領の性格と位置づけについて整理する。
	2	教育課程と学力 学力調査を踏まえた教育課程の改訂、求められる学力と教育課程について話し合う。	PISA・全国学力学習状況調査について調べる。	教育課程と学力の関係について整理する。
	3	学習指導要領の変遷① 昭和22年版・26年版・33年版を踏まえ、社会背景と求められる学力の関係について話し合う。	22・26・33年版学習指導要領について調べる。	社会背景と求められる学力の関係を整理する。
	4	学習指導要領の変遷② 昭和43年版・52年版・平成元年版を踏まえ、教育課程の果たす役割と機能について話し合う。	43・52・元年版学習指導要領について調べる。	教育課程の果たす役割と機能を整理する。
	5	学習指導要領の変遷③ 平成10年版・20年版を踏まえ、学力とは何かについて話し合う。	10・20年版学習指導要領について調べる。	10・20年版学習指導要領について整理する。
	6	現行学習指導要領① 身に付けるべき資質・能力や主体的・対話的で深い学びについて考える。	現行学習指導要領のポイントについて調べる。	現行学習指導要領のポイントについて整理する。
	7	現行学習指導要領② 社会に開かれた教育課程やカリキュラム・マネジメントについて考える。	カリキュラム・マネジメントの意義について調べる。	社会に開かれた教育課程の意義を整理する。
	8	教育課程編成の理論と方法① 教育課程編成について、経験主義と系統主義とを比較しながら考える。	経験主義・系統主義の教育課程について調べる。	経験主義・系統主義の教育課程について整理する。

	9	教育課程編成の理論と方法② 教育課程編成の基本原則、学校の教育目標と教育課程について理解する。	教育課程編成の基本原則について調べる。	学校の教育目標と教育課程の関係を整理する。
	10	教育課程編成の実際① 特色ある実践事例を調べ、教科や領域を横断する教育課程について話し合う。	教科や領域を横断する教育課程編成について調べる。	特色ある実践校の取組を収集・整理する。
	11	教育課程編成の実際② 特色ある実践事例を調べ、単元や学年をまたぐ教育課程について話し合う。	単元や学年をまたぐ教育課程編成について調べる。	特色ある実践校の取組を収集・整理する。
	12	カリキュラム開発ワークショップ① 総合的な学習の時間の目標と内容を知り、テーマ設定と付けたい力について話し合う。	総合的な学習の時間の目標と内容について調べる。	設定したテーマと付けたい力との関係を吟味する。
	13	カリキュラム開発ワークショップ② 内容の選択と配置、他教科や領域との効果的な関連について話し合う。	テーマを踏まえ、学習の素材になるものを集める。	グループで構想した計画を吟味する。
	14	カリキュラム評価 評価の目的、評価の内容と方法について理解する。	カリキュラム評価の方法について調べる。	多様なカリキュラム評価の方法を比べて整理する。
	15	教育課程と授業デザイン 教材開発、教材研究、授業デザイン、創造的なカリキュラムと豊かな授業について考える。	試してみたい楽しい授業について構想する。	身の回りからカリキュラム開発の種を見つける。

使用教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編(東山書房)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	試験・レポート	50%	理解の確かさ・認識の深さ・独自の考え
課題への取組	30%	事前準備・意見発表・事後整理の状況	
平常点	20%	意見交流への前向きな参加態度	

科目名	総合的な学習の時間の指導法	科目ナンバリング	MC4E0E06
担当者	大野 朗久		
担当形態	単独	単位数	1単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
備考	音楽療法	ディプロマポリシー	
		ABCF	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の教育的意義及び学習指導要領の目標・内容を理解し、その活用方法を修得する。 ・総合的な学習の時間で育成する知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等について、具体的実践に学び、取組みの方法を修得する。 ・各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの重要性を理解するとともに、探究的な学習の課程を考慮した単元や授業を構想する方法を修得する。 			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応できる資質・能力を修得するとともに、教職員としての基本的資質や専門性を養う。 ・理論と実践を柔軟に組み合わせ、新学習指導要領で示され3つの柱の具体的指導方法を理解するとともに、探究的な学習の課程における指導のポイント、留意点など、探究のプロセスを重視した学習の指導方法を修得する。 			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス、講義の概要、総合的学習の教育的意義Ⅰ（教育上の課題、教師としての視点、総合的な学習の誕生）	テキストを読み概略を把握する	講義で出てきた用語（キーワード）をノートにまとめる
	2	総合的学習の教育的意義Ⅱ（総合的学習の目標・内容、資質・能力及び指導計画上の留意点）	テキストに記載されている目標及び内容を調べておく	目標及び内容のキーワードを抽出し、ノートにまとめる
	3	総合的学習の指導の実践Ⅰ（探究のプロセスを重視した学習の実践）	テキストに示された探究のプロセスを熟読しておく	富岡第一・第二中三春校の実践のポイントをまとめる
	4	総合的学習の指導の実践Ⅱ（多様性の包摂と探究のプロセス、マルチプル・インテリジェンス理論）	多様性及び質の高い探究について事前に学習しておく	質の高い探究の姿とはどのようなことかまとめる
	5	総合的学習の心理学的基礎理論（教師のリーダーシップと指導原理、教師力）	探究の在り方について自分なりの考えをまとめておく	教師力をつけるために何が必要だったかをまとめる
	6	総合的学習の展開Ⅰ（STEAM教育、探究的な学習の指導のポイント：課題の設定・情報の収集）	課題の設定から情報の収集までの手法を調べておく	課題の設定から情報の収集までの手法を再確認する
	7	総合的学習の展開Ⅱ（未来社会を切り拓く確かな資質・能力：整理・分析～まとめ・表現）	整理・分析からまとめの手法を調べておく	整理・分析からまとめ表現の手法を再確認する
	8	総合的学習の展開Ⅲ（年間指導計画・単元計画の作成及び学習評価）	指導計画の作成及び実施上の記載事項を熟読しておく	今までで学修した内容を整理し資料をまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編(東山書房),
	レジュメ(必要に応じて資料)を配付
参考書・参考資料等	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総合的な探究の時間編(学校図書)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	授業における発言内容	20%	授業への参加・態度
	授業感想等	30%	自己評価・事後整理
	試験及び授業レポート	50%	知識・技能及び思考力・判断力等

科目名	特別活動の指導法	科目ナンバリング	MC4E0E07
担当者	井手 公二		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	後期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
備考			ACDE

授業のテーマ及び到達目標	特別活動について理解を深め、実践的な指導力を修得する。			
授業の概要	特別活動の教育的意義及び各分野の内容と特質、指導法を研究する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 特別活動と教育課程の編成	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	2	特別活動の変遷	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	3	特別活動の目標と内容	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	4	特別活動の基本的な性格と教育的意義	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	5	学級活動の目標と内容①	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	6	学級活動の目標と内容②	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	7	学級活動の指導計画	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく
	8	生徒会活動の目標と内容	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理しておく

	9	学校行事の目標と内容	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理する
	10	学校行事の指導計画と作成	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理する
	11	特別活動の指導案考察	配付プリント資料を読んでおく	講義内容確認と資料を整理する
	12	指導案の作成	配付プリント資料を読んでおく	講義内容確認と資料を整理する
	13	指導案作成と検討	配付プリント資料を読んでおく	講義内容確認と資料を整理する
	14	特別活動の評価	学習指導要領解説特別活動編の該当箇所を読んでおく	講義内容確認と資料を整理する
	15	まとめ	配付資料をまとめておく	実践につながるよう整理しておく

使用教科書	中学校学習指導要領解説特別活動編(最新版)(東山書房),
	適宜プリント資料を配付する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験	60%	筆記試験
課題提出	20%	小テスト等	
平常点	20%	講義内容についての理解度、学修態度	

科目名	教育方法・技術(ICT活用の理論と実践を含む。)	科目ナンバリング	MC4E0E08
担当者	榎山 範夫		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
備考	音楽療法	ディプロマポリシー ACDE	

授業のテーマ及び到達目標	○授業を創る 教師は、生徒の学びを促し、教育効果を上げるために、多様できめ細かい指導の工夫を様々に凝らしている。授業の方法や技術、ICTの効果的な活用について考え、学習指導案の作成と模擬授業の実施によって実感的に理解する。			
授業の概要	教育方法の基礎的理論と実践について紹介し、授業を構想する際の基本的な事項、指導する際の基礎的技術、ICTの効果的な活用について学び、学習指導案を書き、模擬授業を行うことを通して、よりよい授業の方法について理解し、基礎的な指導技術を身に付けていく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業・学力とは何か 授業の構成要件、学力の三要素、資質・能力の三つの柱等について理解する	学力の三要素、育む資質・能力について調べる	学力、資質能力はどうすれば育つか考える
	2	授業の理論と実践をつなぐ 多様な方法論を知り、理論と実践をどうつなぐかについて話し合う	いろいろな授業の方法論について調べて整理する	教育方法の基礎的理論と実践展開を整理する
	3	学習指導要領とこれからの授業 主体的・対話的で深い学びの、特別な支援を要する生徒への配慮について話し合う	主体的・対話的で深い学びについて調べる	特別な支援を要する生徒への配慮を整理する
	4	「令和の日本型教育」とICT活用 誰一人取り残すことのない学びを実現するためのICTの活用について話し合う	「令和の日本型学校教育」について調べる	ICTの効果的な活用について整理する
	5	授業を構想する① 目標設定、教材研究、生徒理解、指導方法、評価計画等について話し合う	授業の目標・内容・方法・評価の関係について調べる	授業の目標・内容・方法・評価の関係を整理する
	6	授業を構想する② 学習指導案の形式と内容について理解し、単元構成、1時間の展開について考える	単元構成、授業展開の工夫について調べる	単元構成、授業展開の工夫を整理する
	7	指導技術を学ぶ① 発問・指示・説明・板書・教材・教具・学習形態等の基礎的技術について理解する	効果的な発問や板書、学習形態等について調べる	効果的な発問や板書、学習形態等を整理する
	8	指導技術を学ぶ② ICTによる教材作成と提示、一人一台端末の効果的な活用方法について話し合う	ICTの活用状況について調べる	ICTの多様で効果的な活用法を考える

9	ICTを活用する① 情報活用能力、情報モラルを育む指導の具体案を構想する	情報モラルに関わる問題事例を調べる	情報活用能力を育む指導法の工夫を考える
10	ICTを活用する② ICTによる遠隔授業、デジタル教材の作成と利用、個別最適な学びの実現について考える	デジタル教材の活用例について調べる	ICTの多様で効果的な活用法を整理する
11	ICTを活用する③ ICTによる教育データの活用、校務効率化の推進について理解する	学校における授業外でのICT活用事例について調べる	教育や校務に資するICT活用について整理する
12	学習指導案を書く 発問・板書・デジタル教材・ICT活用場面等を具体化し、指導案を作成する	自分が目指す授業イメージを具体化する	模擬授業に向けた準備や練習をする
13	模擬授業をする① ICTを効果的に活用しながら、目標達成に向けた効果的な模擬授業を行う	教材の準備、ICT機器の試行をする	模擬授業を踏まえて学習指導案を修正する
14	模擬授業をする① ICTを効果的に活用しながら、目標達成に向けた効果的な模擬授業を行う	教材の準備、ICT機器の試行をする	模擬授業を踏まえて学習指導案を修正する
15	授業とは何か 学修を通して変化した「授業観」を交流し、目指す授業について話し合う	自身が考える「授業」について整理する	「授業」に対する自分の考えを整理する

使用教科書	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編(東山書房)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	試験・レポート	50%	理解の確かさ・認識の深さ・独自の考え
課題への取組	30%	事前準備・意見発表・事後整理の状況	
平常点	20%	意見交流への前向きな参加態度	

科目名	生徒指導の理論と方法	科目ナンバリング	MC4E0E09
担当者	楯山 範夫		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
備考		音楽療法	ディプロマポリシー ABC

授業のテーマ及び到達目標	○生徒指導の現状を知る 生徒指導の基礎理論を踏まえながら、生徒指導上の問題の現状を把握し、具体的な対応について考える。そのことを通して、実践的な指導力を身につける。			
授業の概要	文部科学省『生徒指導提要』を基本テキストとして、生徒指導に関する基本的な認識を深めていく。その際に、具体的な事例を挙げながら、その事例への対処を通して考えるようにしていき、基本的な認識と実践的な認識とを結びつけながら理解していくことを促す。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	生徒指導の基礎① 生徒指導の意義について話し合い、構造について理解する。	テキスト「意義・構造」に関する箇所を読む。	生徒指導の意義と構造について整理する。
	2	生徒指導の基礎② 生徒指導の方法について話し合い、基盤について考える。	テキスト「方法・基盤」に関する箇所を読む。	生徒指導の方法と基盤について整理する。
	3	生徒指導と教育課程① 生徒指導と教育課程の関係、教科指導と生徒指導について話し合う。	テキスト「教育課程」に関する箇所を読む。	教育課程における生徒指導の位置付けをまとめる。
	4	生徒指導と教育課程② 道徳・特活・総合的な学習の時間における生徒指導について話し合う。	テキスト「教育課程」に関する箇所を読む。	教育課程における生徒指導の位置付けをまとめる。
	5	チーム学校による生徒指導体制① 学校における生徒指導体制について話し合う。	テキスト「生徒指導体制」に関する箇所を読む。	生徒指導体制の在り方についてまとめる。
	6	チーム学校による生徒指導体制② 学校における教育相談体制について話し合う。	テキスト「教育相談体制」に関する箇所を読む。	教育相談体制の在り方についてまとめる。
	7	チーム学校による生徒指導体制③ 学校における危機管理体制・法制度等運用体制について話し合う。	テキスト「危機管理体制・法」に関する箇所を読む。	危機管理体制・法制度運用の在り方についてまとめる。
	8	チーム学校による生徒指導体制④ 学校・家庭・関係機関等との連携・協働について話し合う。	テキスト「連携・協同」に関する箇所を読む。	家庭・関係機関との連携・協働についてまとめる。

	9	いじめ いじめの現状を知り、対応の在り方について話し合う。	テキスト「いじめ」に関する箇所を読む。	新聞等の「いじめ」報道から現状を把握する。
	10	暴力行為・少年非行 暴力行為、非行の現状を知り、対応の在り方について話し合う。	テキスト「暴力行為・非行」に関する箇所を読む。	新聞等の「暴力行為・非行」報道から現状を把握する。
	11	児童虐待・自殺 児童虐待・自殺の現状を知り、対応の在り方について話し合う。	テキスト「児童虐待・自殺」に関する箇所を読む。	新聞等の「児童虐待・自殺」報道から現状を把握する。
	12	不登校 不登校の現状を知り、対応の在り方について話し合う。	テキスト「不登校」に関する箇所を読む。	新聞等の「不登校」報道から現状を把握する。
	13	インターネット・性に関する課題 インターネット・性に関する課題の現状を知り、対応の在り方について話し合う。	テキスト「インターネット・性」に関する箇所を読む。	新聞等の「SNS等」報道から現状を把握する。
	14	多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導 発達障害、精神疾患、健康課題、家庭の状況等への理解と対応について考える。	テキスト「多様な背景」に関する箇所を読む。	多様な児童生徒への生徒指導についてまとめる。
	15	これからの生徒指導 これから求められる生徒指導と教師の在り方について話し合う。	自分はどんな生徒指導を行う教師になるか考える。	生徒指導に関する情報から現状を把握する。

使用教科書	生徒指導提要(教育図書)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	試験・レポート	50%	
	課題への取組	30%	
	平常点	20%	

科目名	教職実践演習(中・高)	科目ナンバリング	MC4E0E11
担当者	梶山 範夫・中村 理恵		
担当形態	複数	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次
開講時期	後期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
備考			ABCEF

授業のテーマ及び到達目標	教育の諸問題について、自分の考えをまとめることができる。 学びを深める授業を構想し、指導案を作成・模擬授業をすることができる。			
授業の概要	学校教育に関する諸問題についての現状と対応策について調査・研究し、意見交換をすることを通して、各課題についての理解を深め、自分なりの考えをもつ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教育実習で得たもの(グループ討議)	教育実習で使用した資料を見直しておく	「私にとって教育実習の価値は」をまとめる
	2	教師に求められるもの(グループ討議)	論点整理などをもとに、求められる教師像を調べておく	「教師像」について自分の考えをまとめる
	3	学習支援ボランティア活動に参加して学んだこと(グループ討議)	学習支援ボランティア活動の取り組みをまとめておく	「児童・生徒理解」について自分の考えをまとめる
	4	学級経営と集団づくり(グループ討議)	教育実習での、学級経営の様子をまとめておく	「集団づくり」について自分の考えをまとめる
	5	保護者・地域との関係づくり(講演)	講師への質問を準備しておく	「保護者・地域との連携」についての考えをまとめる
	6	特別な配慮を要する子どもへの対応～音楽療法の視点から～(講演)	講師への質問を準備しておく	今日のテーマについて自分の考えをまとめる
	7	特別支援教育と音楽(グループ討議)	特別支援教育について調べておく	今日のテーマについて自分の考えをまとめる
	8	授業実践から学ぶ(小学校:歌唱/中学校:鑑賞)	歌唱・鑑賞領域の指導目標・内容を確かめておく	「生徒の思考を促す工夫」についての気づきをまとめる

	9	ICTを活用した授業の工夫 ～実践例から学ぶ～(座学)	教育実習でのICT 活用の体験をまと めておく	実習時の指導案 をICT活用の視点 で見直し修正する
	10	学びを深める授業を構想 ～アクティブラーニングの視点	模擬授業用の教 材を選び、視聴演 奏しておく	実習時の指導案 をアクティブラー ニングの視点で見 直す
	11	授業構想の再検討	本時の展開案を 作成しておく	学習カード等、必 要な教材・教具を 作成・準備する
	12	模擬授業と討議(鑑賞) 教材例:ブルタバ	指導案を作成し、 教材や使用機器 の確認をしておく	授業者は指導案 を改善し、生徒役 は気づきをまとめ る
	13	模擬授業と討議(歌唱) 教材例:花	指導案を作成し、 教材や使用機器 の確認をしておく	授業者は指導案 を改善し、生徒役 は気づきをまとめ る
	14	模擬授業と討議(創作) 教材例:和音の音を使って	指導案を作成し、 教材や使用機器 の確認をしておく	授業者は指導案 を改善し、生徒役 は気づきをまとめ る
	15	模擬授業と討議(歌唱) 教材例:浜辺の歌 レポート課題の提示	指導案を作成し、 教材や使用機器 の確認をしておく	授業者は指導案 を改善し、生徒役 は気づきをまとめ る

使用教科書	学生作成の資料
参考書・参考資料等	授業中、適宜資料を配付する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	課題についての内容充実・論旨の一貫性
課題検討への取り組み	40%	事前・事後学修の深まり・積極的参加	
平常点	20%	毎時間の振り返り、理解度、自分なりの考え	

科目名	教育実習指導(事前・事後指導含む)	科目ナンバリング	MC4E0E10
担当者	楯山 範夫		
担当形態	単独	単位数	1単位
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次
開講時期	後期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
備考			ABCD

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義について理解し、実習目標を立てることができる。 ・各自作成した学習指導案をもとに、中心活動部分の指導ができる。 ・指定された7つの楽曲の伴奏を間違わずに弾き、教室内に届く声で歌うことができる。 ・教員採用試験に向けての準備学習計画を立てることができる。 			
授業の概要	<p>教育職員に必要な資質能力及び職務の概要について再確認し、教育実習の意義を理解し、さらに、教育実習に臨む基本的な心構えを身につける。また、御船町教育委員会および嘉島町教育委員会と提携して行う学校支援ボランティア活動を通して、児童生徒への理解を深める。</p> <p>教材曲の弾き歌いや各自で作成した学習指導案をもとにした模擬授業を通して、教育実習の受講許可判断を行う。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教育実習までのスケジュール 教育実習の意義・内容	シラバスを熟読しておく	「心に残っている教師」についてまとめる
	2	教育実習の実践に当たって ・4年生との懇談	教育実習概説を読んでおく	教育実習までに身につけておきたいことをまとめる
	3	生徒の素顔 実習を受け入れる立場から	教育実習概説を読んでおく	教育実習に対する思いをまとめる
	4	音楽の授業づくり 領域・題材・教材について	中学校学習指導要領解説音楽編を読み直しておく	模擬授業のための教材を選択し、分析をする
	5	模擬授業ガイダンス 指導案の形式 評価規準の作成について	教育実習概説を読んでおく	題材名、教材名を確定し、指定日までに教務課に届ける
	6	人権教育についての講座 (熊本県教育委員会人権同和教育課より招聘)	人権啓発リーフレット(事前配付)を読んでおく	「人権教育の意義」について自分の考えをまとめる
	7	模擬授業と弾き歌い	学習指導案の作成と模擬授業の準備、弾き歌いの練習	模擬授業での指導をもとに学習指導案を見直し修正する
8	教育実習までの課題 模擬授業の反省と課題 教育実習の実際と現場の願い	模擬授業で気付いたことをまとめておく	指導案作成について整理。教育実習への抱負をまとめる	

	9	<4年次:直前指導> 教育実習実施までの準備と諸手続き 校長会との申し合わせ事項の確認 実習参加における留意点	実習受け入れ校、 実習期間、本学の 指導教員を確認 する	必要書類を提出 後、指導教員によ る個別面談を受 ける
	10	<4年次:事後指導> 教育実習の反省と総括 教育現場に立つまでの学修計画と諸手続き	実習時の諸資料 を読み返しておく	自分に必要な資 質能力を考え、今 後の学修計画を 立てる

使用教科書	教育実習概説(平成音楽大学),
	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の音楽1,中学生の音楽2・3上(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上,中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	「指導と評価の一本化」のための学習評価に関する参考資料[中学校音楽](東洋館出版社),

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	模擬授業	60%	指導案、準備・板書、発問・応答、音楽指導
	弾き歌い	20%	伴奏の正確さ、歌唱:リズム、音程、音量等
	教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解
	毎時間の振り返り	10%	理解度、事前事後学修の取り組みと内容

科目名	教育実習 I	科目ナンバリング	MC4E0E12
担当者	楯山 範夫		
担当形態	単独	単位数	4単位
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		必修	
		音楽療法	ディプロマポリシー
			ABCDEF
備考			

授業のテーマ及び到達目標	<p>生徒や教職員とのふれ合いを通して、これまで学修してきた教職科目や専門科目の理論と実践の統合を図り、教師としての資質能力、基礎的な知識や技能を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義や教員の役割、職務内容、生徒に対する責任などについての理解を深める。 ・生徒の生活や学習の実態、心理や行動を理解する。 ・生徒主体の授業、深い学びの授業づくりについて理解を深める ・教科指導だけでなく、教育全般について理解を深める
授業の概要	<p>○教育実習は、母校又は協力校(中学校)で3週間の連続した実習を行う。</p> <p>○以下の内容を、実習校の指導計画に従い指導担当教諭の下で実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話・授業観察、授業参加、実地授業 ・研究授業 朝の会、帰りの会の指導、給食指導、清掃指導等 ・教室設営及び学級事務処理等 ・朝のボランティア活動 ・部活動指導等
授業計画	<p>○学内の通常授業としては開講されない</p> <p>○実習校の教育実習計画に従って実施される</p> <p>【成績評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校による「教育実習評価」を下記の評価項目について5段階評価で行う ・項目ごとに、5(秀、優) 4(良) 3(可) 2(不可、劣る) 1(不可、非常に劣る)の達成度で評価する ・「教育実習評価」が6割に満たない場合は「不可」とする <p>【実習態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①勤務状況 <ul style="list-style-type: none"> 教員として相応しい服装、髪型、言葉づかい 遅刻、欠席がなく実習に専念 ②教職員との協調と指導の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> 指導講話、指導助言を積極的に受け入れ、活かす 部活動指導、職員作業等へ積極的に参加 ③検討会・反省会 <ul style="list-style-type: none"> 授業検討会・反省会での意見発表と自己評価 検討会・反省会の内容整理と指導力向上 ④実習記録 <ul style="list-style-type: none"> 実習記録、諸届けの提出状況 観察や検討会、実習の成果を踏まえた記録内容 <p>【学習指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教材研究及び準備 <ul style="list-style-type: none"> 事前の教材研究の深まり 学習活動に必要な教材・教具・資料作成、板書計画 ②学習指導案の作成 <ul style="list-style-type: none"> 題材の目標を捉え、目標達成に向けての学習活動の構想 発問構想、生徒の反応予想に基づく支援や評価の観点を踏まえた学習指導案 ③授業展開における指導 <ul style="list-style-type: none"> 課題提示、発問、板書など学習活動を活発にする工夫 机間指導等での適切な言葉かけと評価 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導

- ①生徒指導
 - 生徒との良好な関係づくり
 - 休み時間、委員会活動、学校行事等での積極的な関わり
- ②学級活動
 - 学級活動、朝の会、帰りの会、係活動、当番活動での適切な指導
 - 衛生面・安全面に留意した給食指導や清掃指導
- ③学級経営
 - 教室設営、整理整頓、戸締まり等の管理への協力
 - 生徒の作品やワークシートなどの適切な評価と取り扱い

使用教科書	
参考書・参考資料等	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	各実習校で使用している教科書、指導書など

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	上記のとおり		

科目名	教育実習Ⅱ	科目ナンバリング	MC4E0E13
担当者	楯山 範夫		
担当形態	単独	単位数	4単位
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次
開講時期	後期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
		選択必修	音楽療法
			ディプロマポリシー
			ABCDEF
備考			

授業のテーマ及び到達目標	<p>生徒や教職員とのふれ合いを通して、これまで学修してきた教職科目や専門科目の理論と実践の統合を図り、教師としての資質能力、基礎的な知識や技能を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義や教員の役割、職務内容、生徒に対する責任などについての理解を深める。 ・生徒の生活や学習の実態、心理や行動を理解する。 ・生徒主体の授業、深い学びの授業づくりについて理解を深める ・教科指導だけでなく、教育全般について理解を深める
授業の概要	<p>○教育実習は、母校(高等学校)で2週間の連続した実習を行う。</p> <p>○以下の内容を、実習校の指導計画に従い指導担当教諭の下で実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話・授業観察、授業参加、実地授業・研究授業 ・ホームルーム指導、給食指導、清掃指導 ・教室経営及び学級事務処理等 ・朝のボランティア活動・部活動指導等 <p>○教育実習の内容と反省を「教育実習の記録」に毎日記入し、提出する</p>
授業計画	<p>○学内の通常授業としては開講されない</p> <p>○実習校の教育実習計画に従って実施される</p> <p>【成績評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校による「教育実習評価」を下記の評価項目について5段階評価で行う ・項目ごとに、5(秀、優) 4(良) 3(可) 2(不可、劣る) 1(不可、非常に劣る)の達成度で評価する ・「教育実習評価」が6割に満たない場合は「不可」とする <p>【実習態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①勤務状況 <ul style="list-style-type: none"> 教員として相応しい服装、髪型、言葉づかい 遅刻、欠席がなく実習に専念 ②教職員との協調と指導の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> 指導講話、指導助言を積極的に受け入れ、活かす 部活動指導、職員作業等へ積極的に参加 ③検討会・反省会 <ul style="list-style-type: none"> 授業検討会・反省会での意見発表と自己評価 検討会・反省会の内容整理と指導力向上 ④実習記録 <ul style="list-style-type: none"> 実習記録、諸届けの提出状況 観察や検討会、実習の成果を踏まえた記録内容 <p>【学習指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教材研究及び準備 <ul style="list-style-type: none"> 事前の教材研究の深まり 学習活動に必要な教材・教具・資料作成、板書計画 ②学習指導案の作成 <ul style="list-style-type: none"> 題材の目標を捉え、目標達成に向けての学習活動の構想 発問構想、生徒の反応予想に基づく支援や評価の観点を踏まえた学習指導案 ③授業展開における指導 <ul style="list-style-type: none"> 課題提示、発問、板書など学習活動を活発にする工夫 机間指導等での適切な言葉かけと評価 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導

- ①生徒指導
 - 生徒との良好な関係づくり
 - 休み時間、委員会活動、学校行事等での積極的な関わり
- ②学級活動
 - 学級活動、朝の会、帰りの会、係活動、当番活動での適切な指導
 - 衛生面・安全面に留意した給食指導や清掃指導
- ③学級経営
 - 教室設営、整理整頓、戸締まり等の管理への協力
 - 生徒の作品やワークシートなどの適切な評価と取り扱い

使用教科書	
参考書・参考資料等	高等学校学習指導要領解説芸術(平成30年)(教育図書),
	各実習校で使用している教科書、指導書など

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	上記のとおり		